

大会約款（大会特別規定）※参考

本大会は、少年野球団体が他団体と交流することにより、少年野球の発展に寄与することを目的とする。
上記目的に賛同する団体は、主催者と各団体代表者による実行委員会の承認をもって、出場することができる。
大会運営にあたり、下記の大会特別規定を定める。

大会運営に関する特別規定

1. 本大会に参加できる選手は所属団体の規定を満たすものとする。ただし、本大会の参加資格は、2020年に各所属団体に登録した中学3年生および監督、コーチとする。
2. チームは、単独および連合チームとし、11名以上、20名以内の選手で初日は人数制限なし、決勝ラウンドは別に定める。ベンチに入る責任者、監督、コーチ（スコアラーを含む）は4名までとする。登録名簿変更の場合は大会当日、変更後の名簿を5部本部席へ提出し、承認を得る。
3. 選手、監督、コーチ（マネージャー、スコアラーは除く）は、自チームの着用しても良い。
なお、背番号は重複しても良い。
4. 各チームは必ず成人である引率者が、大会中（集合日から解散まで）、選手の行動ならびに観客席での応援などに対して責任を負うこと。
5. ゴミは球場施設内に捨てず、必ず持ち帰ること。スタンドで応援する選手、保護者にも徹底すること。
6. 大会中の負傷または疾病に対して主催者は責を負わない。

競技に関する特別規則※以下は大会要綱明記のとおりとする。

- ① 各チームの監督と主将は試合開始時刻40分前、または前試合4回終了後（コールドゲームのときは試合終了次第）所定のメンバー表を競技委員に提出し、同時に審判員立会いのもとで攻守の順を決める。
なお、この際、所定の投球回数申告用紙（投手ごとに前試合および/または前日までの投球回数を記載）も併せて提出すること。
また、大会本部は提出されたメンバー表と登録原簿の照合を行うとともに、試合開始前に用具の点検も行う。
- ② 各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。
（4回表を終わった際、または4回裏の途中で打ち切りを命じられた試合で、後攻チームの得点が先攻チームの得点より多いとき。）
試合成立後に、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、両チームが完了した均等回の総得点で勝敗を決する。同点の場合は最終回時点出場していたメンバー全員の抽選とする。
試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、大会本部が指定した日時、場所で、再試合とする。
- ③ 4回終了時10点差以上の場合及び5回以降終了時7点差以上の場合はコールドゲームとする。（ただし決勝戦にはコールドゲームを適用しない）
- ④ 7回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長10回あるいは試合開始から1時間50分を超えて（どちらか早い方）新しいイニングには入らず最終回のメンバー全員の抽選とする。
- ⑤ 投手の投球回数に関しては、「中学生投手の投球制限に関する統一ガイドライン」に基づくものとする。
【中学生投手の投球制限に関する統一ガイドライン】
1日7イニング以内とし、連続する2日間で10イニング以内とする。また、1日に複数試合に登板した投手及び連続する2日間で合計5イニングを超えた投手（5イニングは可）は、翌日に投手または捕手として試合に出場することはできないものとする。ただし、イニングの端数（0/3・1/3 および 2/3）は1イニングとみなす。
- ⑥ 選手が打席に入る時は、必ず両耳つきヘルメットをかぶること（次打者を含む）。また、走者も危険防止のため必ず着用すること。なお、捕手も防護用ヘルメットと所定の防具を着用すること。（練習時も含む）

- ⑦ 特別代走を認める。これは、特別な事情（死球による負傷など）により、一時的に休めば試合に出場できると審判員が判断したときに限り適用できる。この場合、その打者の最も近い打撃の完了した選手（投手を除く）を特別代走者とする。
- ⑧ 本大会では、金属バットならびに金属と他の材質との接合バットの使用を認める。
- ⑨ 監督（コーチ）が一試合（7イニング）に投手のもとへ行ける回数を2回までとする（投手を交代させた場合は回数として数えない）。監督（コーチ）が2度投手のもとへ行ったら、3度目以降に行けば、そのときの投手は自動的に交代しなければならない。この場合、他の守備につくことはできるが、その試合で投手に戻ることはできない。
また、監督（コーチ）が投手のもとへ行ったらを除き、守備側のタイムは1試合（7イニング）につき2回までとする。（捕手は除く）
攻撃側のタイムは1試合（7イニング）につき2回までとする。
- 延長回に入った場合は、それ以前の回数に関係なく、
監督（コーチ）が投手のもとへ行ける回数は3イニングにつき1度とする。
守備側のタイムは3イニングにつき1回とする。
攻撃側のタイムは3イニングにつき1回とする。
- ⑩ 監督またはコーチが同一投手のもとへ行くことに関して1イニング2度行けば、投手交代することとするが、野球規則5.100にもかかわらず、他の守備につくことができる。ただし、その試合の投手に戻ることはできない。
- ⑪ 規則5.10(d)【原注】前段のうち「同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることはできない」は適用しない。
- ⑫ 故意四球の申告制を採用する。野球規則5.05(b)(1)細則参照
- ⑬ その他特に定めのない限り、公認野球規則を適用する。

大会特別規定・補則※参考

1. 球場に到着したチームは、速やかに本部にその旨を報告し、メンバー表を受け取ること。
2. ベンチは組み合わせ表の若番のチームを1塁側とする。
3. グランドインから試合終了まで、責任者、監督、コーチ、スコアラー、登録選手以外はベンチに入ることができない。
4. グランドインしたチームは競技委員の指示のもとに、速やかに試合前の練習を行うこと。グラウンドルールがある場合はそれに従うこと。
5. 原則として、試合前のシートノックは行わないが、行う場合（5分間）は事前にチームへ伝える。
6. 試合をスピーディーに行うため以下の項目を守ること。
 - A 攻守交代時守備に移るチームが速やかにポジションにつくことはもちろんのこと、攻撃に移るチームも第一打者とベースコーチはミーティング（円陣）には加わず、所定の位置に速やかにつくこと。
 - B 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球し、これを受けた投手は、ただちに投手板を踏んで、投球位置につき、捕手からのサインを受けること。
 - C 打者はみだりにバッターボックスを出ることは許されない。たとえタイムを要求しても審判員がタイムを宣告しないときはインプレイとする。
 - D 次打者は必ずネクスト・バッターサークルに入り待機すること。※各団体の規定で行っても差支えない。
 - E 捕手は、投手に返球したり、野手に声をかけるために、一球ごとにホームプレートの前に出ないこと。
7. コーチボックスには監督、コーチ、選手いずれかが入る。必ずヘルメットを着用すること。（選手は両耳ヘルメットを着用）
8. 規則6.04に規定のとおり、監督、コーチ、選手、スコアラー、マネージャー等いずれも相手選手を惑わすような行動をとってはならない。
9. 手袋、リストバンド、リストガード、エルボーガード、フットガードの使用を認める。打者が走者になった場合、これらの着脱のためだけのタイムは認められない。ただし、打者走者が二塁ベースに到着した際に限り、これらの着脱のためのタイムを認める。（速やかにベースコーチがとりにいくこと）
10. サングラスは、日よけ防止のため外野手のみ身につけることができる。ただし、ミラーレンズ、ガラスレンズは禁止とする。また首輪（リング）については、ユニフォームの上から見えないように身につけるべきものとし、露見するものは禁止する。
11. 試合中、次の試合のチームはグラウンド内での投球練習は4回終了以降1組のバッテリーを認める。
12. バットボーイ・ボールボーイ、シートノック補助員は登録選手以外でも良いが、両耳ヘルメットを着用する。
13. 審判の担当については、大会本部により決定する。
14. 試合球については、本大会指定の試合球を使用する。
15. 各球場内の諸行動については、多くの利用制限事項があるため、役員の指示を厳守すること。役員関係者は表示携帯を義務付ける。